

# 医療体制の脆弱な 飛騨地域

～飛騨地域コロナ対策医療支援基金 官民連携共同プロジェクト～

認定NPO法人 まちづくりスポット

代表理事 竹内ゆみ子

# 認定NPO法人 まちづくりスポットとは

2011年 高山市にあるNPO法人ムラのミライ(前ソムニード)が、大和リースの開発する商業施設プレスポの中に、管理人を置かないコミュニティスペースの利用者を調査するために出会ったことがきっかけで誕生した。NPOの中間支援団体。

2012年11月 交流スペース「まちスポ飛騨高山」オープン

2013年 NPO法人登記完了 NPO法人まちづくりスポット誕生

2015年3月 ムラのミライのプロジェクトから完全に独立

2017年4月 富山市にサテライト・オフィス「まちスポとやま」開設

2018年4月 介護者のためのホットする談話室開始

その間、NPO支援、インターンシップ事業、子供のためのお仕事発見事業、留学生受け入れ、全国のまちスポ設立支援、移住定住促進事業、家族介護者相談事業など

- ・日本パートナーシップ優秀賞受賞
- ・まちづくり法人国土交通大臣表彰受賞
- ・CSO \* アワード賞受賞(\* Civill Society Organizaition)

# まちづくりスポットの活動地域

飛騨一円、特に高山を中心に活動し、各地方の中間都市と連携する。

「歩み出すその一歩を応援する」をビジョンとして活動する中間支援団体。



飛騨地域の3市1村(高山市、飛騨市、下呂市、白川村)の人口は、合わせて143,710人。

岐阜県とは日本の中部地方に位置する県。

面積 10620km<sup>2</sup>

人口 約199万(2019年6月)

うち飛騨地域全体で約14万人

北側の飛騨地方と  
南側的美濃地方とは、  
気候も大きく異なる



岐阜県 飛騨地域 人口約14万人  
(高山市、飛騨市、下呂市、白川村)

飛騨市 15km  
車約24分

白川村 15km  
車約44分

高山市

病院病床1158  
全国平均1185

結核・感染症病床12

岐阜市  
134km 車約1時間47分

下呂市 50km  
車約1時間8分

飛騨地域の病院に、  
ECMOはない。高山から  
岐阜大学病院までは、  
距離がある

# コロナ以前、飛騨地域、特に高山市は 国際観光都市として有名でした



2019年観光客数 年間473万3千人(内外国人宿泊数61万2204人)

# 2020年当時のコロナウイルスに対する 飛騨地域の状況、人々の反応

2020年3月 飛騨地域内でマスク不足が起こる。

病院勤務者への差別的言動を聞く。

小学生がマスクなしで登校していると説教する大人現れる。

2020年4月 高山市、飛騨市、白川村で「飛騨はお休みです」を発信

小中高学校の休校。町内会の掃除も中止。高山春・秋祭りも中止。高齢者の外出が極端に減る。

2020年11月、高山市内で初感染者一人発生。その後ポツポツと継続発生。

当時の飛騨地域(高山市、飛騨市、下呂市、白川村)のコロナ対応ベット数は、全部で60床と聞く。

# 飛騨地域 医療従事者のマスク不足

2020年4月6日～13日 まちスポで「マスク不足のアンケート」を取る

(医療従事者にもマスク不足がわかる。医療現場で使用するサージカルマスクは行政から支給されるものの、彼らが日常生活で使うものまではフォローされず。)

4月下旬、心配より心配りと企業から支援マスクがまちスポに寄付される。

。アンケートで分かった飛騨地域6病院に届ける。

行政の支援ができない部分へ、NPOとしてピンポイントで支援できた。



まちスポ・田辺(左) 船坂酒造店・有樂社長(中) 駿河屋魚一・溝際社長(右)

マスク1万枚のご寄付  
(株)駿河屋魚一様と(有)船坂酒造店様から

アンケート結果により、飛騨地域の医療従事者にもマスクが行き届いていないということがわかりました。医療現場で使用するサージカルマスクは行政からは支給されるものの、医療従事者が日常生活で使うものまではフォローしきれないというものです。その結果を受け、2社より「困っている市民や最前線で働く人たちに届けてほしい」と、不織布マスク1万枚のご寄付をいただきました。まちスポはいただいたマスクを配布するために病院への連絡、職員数毎の振分け、配送手配を担い、無事に飛騨地域内6病院に寄贈させていただきました。これをきっかけに優しさや助け合いの輪が広がっていきますように。



# クラウドファンディングで医療支援プロジェクト始まる＝目標1000万円

5月4日 高山市役所で会議(企画部部長、行政課長、まちづくりスポットからスタッフ2人参加)



まちスポから提案。自治体単位ではなく生活圏での範囲としたもので、寄付型なら一緒にする必要性を感じる。認定の仕組みも伝える。

# 2ヶ月で目標達成率280%

## NPOだからできたこと

- ・クラウドファンディング開始直後、現金で渡したいという声が届き、現金受付方法を一気に拡大。
  - ・まちスポでの受け取り、6月16日以降、飛驒地域の各行政窓口および銀行指定振込用紙をまちスポが作成しておいてもらう。
  - ・この結果、クラウドファンディングより現金寄付が多くなる。
- ・寄付件数 560件(個人429名、団体法人131団体)
- 寄付総額 28,001,201円(内クラウド分 2,726,000円)

# 2021年4月7日寄付贈呈式 IN 高山市役所 (高山市、飛騨市、白川村、下呂市)



# 寄付金はどのように配分し、NPO の関わりで何が変わったのか

- ・基本的な案は医療機関を把握している行政が草案を作り、感染者受け入れ先、救急指定先には厚くした。この件に対して、市民からの批判があれば、受け入れ先のまちづくりスポットが責任を持つと約束。
  - ・物品を望む施設には、物品を。資金を望む施設には資金提供を。
- 

- ・高山赤十字病院でPCR検査室ができる
- ・久美愛厚生病院のベット数増床31となる
- ・コロナ対策に何かをしたいと思っている市民の行動を促すことができた
- ・2021年5月現在飛騨地区全体コロナ対応病床数は、高山赤十字病院、久美愛厚生病院、県立下呂温泉病院を合わせて73床になる

●プロジェクトは、違ったセクターの共同で大きな力になる

行政の限界と信用、市民や企業の資金協力、NPOの機動力と変化への対応